

感染症

感染症は、ウイルスや細菌など病原性のある(人間にとって悪害のある)微生物により発症する病気です。ウイルスや細菌やマイコプラズマなどの分類は、その形、大きさ、構造、機能などにより決まっています。その病原体の種類により治療法が決まってきます。よく言われるように、細菌には抗生物質が効くがウイルスには効かないなどは病原体のそもそもの種類が違うからなのです。一般に風邪はウイルスが原因ですから、抗生物質は根本的には効きません。二次災害を避けるためだと考えると理解しやすいと思います。感染症は、病原微生物による分類のほか、侵される臓器の種類や程度などによっても変わってくるので、若干複雑です。

治療方法はともかく、普段の予防の面ではアークフラッシュの抗菌の効果について、細菌やウイルス等の病原性の微生物に対してもかなりなものであるとの報告を各方面よりいただいております。

ダニやゴキブリ等

ダニは、カビとともに、**アレルゲン**(アレルギー症を発症させる原因となるもの)になり得るもの。

ダニそのものだけでなく、ダニの糞や死骸などは、**アレルギー性鼻炎**や**ぜんそく**の原因に、またツメダニと呼ばれる刺咬性のあるダニが刺したときの分泌物(唾液)は、**アレルギー性皮膚炎**を発症させるもと。

特に、アレルギー性ぜんそくは、80%以上ダニが原因であるといわれている。

小さい子がいる家庭や、アレルギー症の人には、ダニは天敵なのだ。

さて、ダニとはどんな生き物なのだろうか？

生物学的分類では、**クモの親戚**になる。ただ、クモや昆虫は、頭、胸、腹が分かれている(クモの頭と胸は一緒)のに対し、ダニはひとつしかない。

また、**体長は 100~1000 ミクロン、幅 50~200 ミクロン**と、非常に小さく、肉眼ではあまり見えない。だから、家の中にも気がつかないことが多いのだ。

ダニは次のような条件で繁殖する。**温度**・・・20~30度 **湿度**・・・60%以上 **栄養源**・・・カビ、他のダニ、人のフケ、食べ物など **栄養源**・・・カビ、他のダニ、人のフケ、食べ物など。

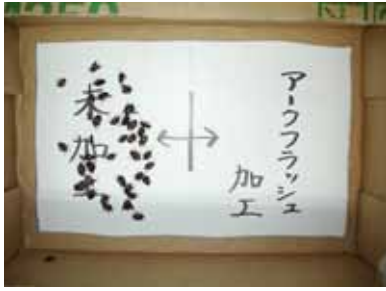
ケナガコナダニを夏と同じ条件(温度25、湿度75%)で水やエサを十分に与えたところ、**30匹が10週間で1万匹に増えた**という実験結果がある。しかし、おもしろいことに冬を想定した温度・湿度では、いくらエサや水分があっても、30匹が10週間後には半減してしまったというのだ。

また、ダニの種類によっては、条件さえそろえば、**約2週間ほどで卵から成虫に育つ**とか。やはり、夏は爆発的にダニが増える時期なのである。

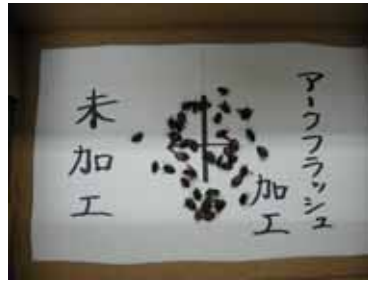
同じような人間にとって有難くないゴキブリや蚊等の害虫は、アークフラッシュを嫌がる実験結果があります。(添付写真)

屋内の敷設でダニ対策するとともに、建物の外壁等への敷設は防汚効果ばかりでなく、防害虫の

効果も期待できるところです。



カメムシによる実験（数時間後）



（当初の状態）

札幌刑務所（札幌市、杉田尚文所長）で昨年秋、受刑者約100人が皮膚病の疥癬（かいせん）に集団感染していたことが28日、分かった。夏ごろからかゆみなどの症状を訴える患者が多数いたが、外部の病院に受診させたのは10月下旬で、実態の把握が遅れた。11月上旬から、薬の処方や殺虫剤の散布を行い、現在は全員が回復したという。

疥癬は疥癬虫（ヒゼンダニ）が皮膚中に入り込む皮膚病の一種で、激しいかゆみを伴い、高齢者施設や病院での院内感染が問題となっている。

同刑務所によると、昨年夏ごろから、体のかゆみを訴える受刑者が多数いたが、所内の医師の診断では、毛穴などから細菌が入り炎症になる「毛膿炎」とされた。

触れる動物園で子どもたちが重症の腎不全に 父兄たちに衝撃

子どもが動物園などで、動物たちと触れ合う機会も多いが、米フロリダ州で、9人の子どもたちが、動物との接触で、重症の腎臓障害にかかった可能性が高くなり、親たちにショックを与えている。疾病予防関係者らは、動物に触った場合は、必ず石鹸などで手を洗うこと、動物を接触する檻の中に入る場合は、食べ物を持ち込まないなどを励行するよう、注意を呼び掛けている。腎不全の障害を起こし、病院に搬送された子どもたちは、フェスティバルの会場などに檻を囲って特設された中で、動物たちと接触していた。発病した9人のうち、5人は重症。米紙プレス・エンタープライズによると、病名は「溶血性尿毒症症候群」で、大腸菌0157が原因である可能性が高いという。この大腸菌は、生の牛肉や、動物の糞などにいるとされる。症状としては、下痢や、貧血、排尿の減少などを起こすという。日本でも大腸菌0157による集団食中毒が以前発生している。子どもたちは、動物との触れ合いが大好きだ。しかし、子どもを動物と接触させるには、衛生上から、十分な配慮が必要のようだ。米カリフォルニア州で、小規模な動物園を営んでいるロリ・ベイヤーさんは、「入園者に対し、子どもの手を洗うよう標識を掲げてさらに注意を呼び掛けるつもり。親たちも、子どもが動物の糞などを手にして、口に入れないように、気をつけてほしい」ベイヤーさんは、動物を触った場合には、手が洗えるように消毒剤を提供し

ている。口から感染するので、檻の中に入るときは、子どものおしゃぶりや、食べ物、おもちゃなどは持ち込むのは厳禁だ。親の中には、自由奔放に動き回る子どもをコントロールできないと嘆く人もいるが、ベイヤーさんは、「自分の子どもより、自分がどれだけ大きいかを考えてほしい」と、父兄らに対し、協力を求めている。米ジョージア州の疾病予防センターのニナ・マラノ博士は、米CBS放送に対し、「溶血性尿毒症症候群は、特に5歳以下の子どもにとっては、大変深刻な感染になる」と話す。さらに、「子どもは、触ることのできる動物園に来ると、何にでも触ってしまう。動物が、なめたりする手すりにも、子どもたちは触る。その後、子どもたちが、手で何かを口にすれば、大腸菌が入り込み、子どもが病気になる」と警告している。またマラノ博士は、年少の子どもの場合、檻の中で抱えていれば、大腸菌に接触する可能性は減少するとアドバイスしている。全米公衆衛生獣医協会では、フロリダ事件を重視し、触れる動物園を運営している関係者に対し、十分な監視を行なうとともに、定期的な動物の健康チェックを行なうよう新たな指針を打ち出している。一方、疾病予防センターの報告によると、2000年にペンシルベニア、ワシントン州で、子どもたちが農場を訪問したため、56人が発病し、19人が入院したという。農場でも、家畜から大腸菌に感染する危険性が高いことを物語っている。農場では、手を洗う消毒剤が設置されていないこともある。

北朝鮮、鳥インフルエンザの発生を確認

北朝鮮は、平壤の複数の養鶏場で、鳥インフルエンザが発生したことを確認した。これらの養鶏場では、感染した数十万羽ものニワトリが処理されたという。

朝鮮中央通信社（KCNA）が伝えた。

KCNAによると、養鶏場の従業員への感染は確認されていない、という???